

2024年度 講義要綱

科 目	必修 コミュニケーション I 講義		講 師	石原 成
授業概要	・クラスを一つの集団とみなし、集団として成長していく過程を体験学習する。 ・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。 ・認定絵本士養成講座科目を学び絵本への理解を深める。(該当科目6コマ)			
授業目標	・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養えるようにする。コミュニケーション能力を身に付ける。 ・社会人としての自己像を明確にする。 ・我が国の読書推進活動に関する施策の経緯について理解する。受講者同士の相互理解を深め絵本専門士の役割について確認する。(認定:「オリエンテーション」鈴木八重子) ・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。絵本の提案の前提となる、絵本に係る情報収集及び整理の方法について理解する。(認定:「絵本の世界を広げる技術③」井上まどか) ・公共図書館の行う児童サービスについて理解する。地域の読書活動推進活動における絵本をめぐる活動の展開を理解する。(認定:「絵本と出会う③」武田優) ・絵本の内容及び特質を客観的に捉えることについて理解する、書評及び紹介文の書き方を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術②」横山雅代) ・障害者、病児及び高齢者等絵本の選択や紹介にあたり、特に配慮を必要とする人について理解する。(認定:「絵本を紹介する技術③」井上まどか) ・子どもにとって魅力的な絵本に関する空間やレイアウトについて理解する。(認定:「絵本のある空間」飯田有美)			
到達目標1	・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
到達目標2	・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養い、進路決定に必要な基本的知識、スキルを活用できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度50点	
授業方法	コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。			
授業計画	1 オリエンテーション			
	2 クラス活動①			
	3 コミュニケーションプログラム担当:三浦さなえ			
	4 クラス活動②			
	5 クラス活動③			
	6 産学連携			
	7 クラス活動④			
	8 クラス活動⑤			
	9 クラス活動⑥			
	10 クラス活動⑦			
	11 クラス活動⑧			
	12 産学連携			
	13 クラス活動⑨			
	14 クラス活動⑩			
	15 クラス活動⑪			
	16 オリエンテーション			
	17 クラス活動⑫			
	18 【認定絵本士養成講座科目】「オリエンテーション」担当:なかむらしんいちろう			
	19 【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術②」担当:井上まどか 課題提出			
	20 クラス活動⑬			
	21 産学連携			
	22 就職にむけて(1)担当就職相談室			
	23 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術②」担当:横山雅代			
	24 就職に向けて(2)担当就職相談室			
	25 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術③」担当:井上まどか 課題提出			
	26 クラス活動⑭			
	27 産学連携			
	28 【認定絵本士養成講座科目】「絵本のある空間」担当:江花志乃			
	29 クラス活動⑮			
	30 【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う③」担当:武田優			

必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献				
担当教員の専門分野等	石原成:実務経験のある教員による授業に該当。 【認定絵本士養成講座担当講師】 ○なかむらしんいちろう:講座責任者 ○井上まどか:絵本を活用したワークショップの企画及び実践経験を持つ者・障がい者、病児、高齢者、特に配慮を要する人及び当該者向けの絵本に精通した者 ○江花志乃:書店における絵本の売り場づくり、及び、絵本の出版流通に精通した者 ○武田優:図書館司書業務と、地域の読書推進活動における絵本をめぐる活動の現状に精通した者 ○横山雅代:書評に関する専門的知識を有する者			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	10 %

2024年度 講義要綱

科 目	必修 講義			講 師	真砂 雄一
授業概要	健康を取り巻く社会状況の中で、国民一人一人が生涯にわたる心身の健康の保持増進を図るためには、疾病の発症そのものを予防するのみならず、ストレス解消やストレスへの抵抗力を増す観点からも、運動、栄養及び休養を柱とする調和のとれた生活習慣の確立が不可欠である。また、生涯にわたって豊かなスポーツライフを送るためには、運動やスポーツについての幅広い知識を身につけておくが必要になる。スポーツの意味や素晴らしさに加え、運動技能や体力を合理的に向上させるための科学的知識や方法を学び、スポーツの歴史や文化的意義などを総合的に捉え、体育の必要性を考えていく。				
授業目標	・生涯にわたり有意義な人生を送るために、健康なライフスタイル(生活様式)を確立することは重要であり、そのための健康・スポーツについての基礎知識を身につける。 ・誕生からの一生涯にわたるからだの発達と加齢のプロセスを理解できるようになる。 ・授業で修得した知識や態度が、個人の日常生活で活用され、より健康で豊かな生活が営めるようになる。				
到達目標1	健康・スポーツについての基礎知識を身につけ、理解したことを説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(10点)、中間試験(10点)、筆記試験(30点)		
到達目標2	誕生からの一生涯にわたるからだの発達と加齢のプロセスを理解し、説明することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(10点)、中間試験(10点)、筆記試験(30点)		
授業方法	授業は、オンラインで行う講義と対面での講義のアクティブラーニング・スタイルで行う。 授業で学んだ知識を日常生活に取り入れ、自身の健康について考える機会としてもらいたい。 ※社会情勢や進行状況に合わせ内容や順番を適宜変更する。				
授業計画	1 ガイダンス・スポーツについて考える 2 子どもにとっての公園遊具とは 3 健康と運動 4 年齢別に応じた運動指導 5 色々な環境下での運動(オンライン) 6 産学連携 7 体力 8 中間試験 9 幼児期に必要な運動(体育) 10 運動時の怪我と応急処置(骨と筋肉・加齢) 11 トレーニング(オンライン) 12 産学連携 13 運動神経とは 14 人体の構造と機能 15 まとめ、振り返り、筆記試験				
必須テキスト	特になし(授業中に配布、オンライン上に資料を掲示)				
参考文献	授業内で適宜紹介する				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。 現在短大にて、幼児体育や健康を担当する准教授として勤務。 小学校で体育テクニカルアドバイザーの経験あり。保育園にて運動指導アドバイザー。 専門分野:幼児体育、身体表現、健康科学				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

2024年度 講義要綱

科 目	日本語		必修 講義	講 師	橋本 千鶴
授業概要	人間の言語能力である「話すこと」「聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの特徴を理解し、保育者として求められる基礎的な言語能力の向上を目指す。実習や保育現場での対応を想定して、4つの言語能力を具体的な場面から考える。				
授業目標	1.「話すこと」自分の伝えたいことを分かりやすく表現する。 2.「聞くこと」相手の言いたいことを的確に把握する。 3.「書くこと」自分の考えや思いを明確に表現する。 4.「読むこと」書いてある内容を正確に理解し、適切に口頭で表現する。				
到達目標1	自分の考えや思いを、相手意識・目的意識を考えて適切に表現することができる(話す・書く)。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への積極的な取り組み度(10点)、素話の発表・言葉遊びの実技・課題(小論文や観察記録など)・授業の振り返りのリアクションペーパー(40点)		
到達目標2	話し手や書き手の言いたいことを正確に理解し、自分の考えを明確にすることができる(聞く・読む)。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への積極的な取り組み度(10点)、話の聞き方の実技と振り返り(20点)、絵本の読み聞かせの実技(10点)・授業の振り返りのリアクションペーパー(10点)		
授業方法	保育者に必要な4つの言語能力について、グループワーク・ディスカッション等の体験や実技を通して実践的に学ぶ。				
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価他)・【話】自己紹介・【聞】素話の紹介				
	2 【書】文字の正しい書き方(平仮名・漢字他)				
	3 【書】観察記録・実習日誌の書き方				
	4 【書】連絡帳の書き方				
	5 【書】原稿用紙の使い方・小論文の書き方				
	6 産学連携				
	7 乳幼児の言葉の発達と言語表現				
	8 【話】素話の発表・【話】保護者への話し方				
	9 【聞】カウンセリングマインドに基づく話の聞き方(1)(言語的技法)				
	10 【聞】カウンセリングマインドに基づく話の聞き方(2)(非言語的技法)				
	11 【話】子どもと楽しむ言葉遊び(1)				
	12 産学連携				
	13 【話】子どもと楽しむ言葉遊び(2)(模擬保育)				
	14 【読】文章の読み方(音読)・【読】絵本の読み聞かせ				
	15 【読】昔話(解釈と言葉のおもしろさ)				
必須テキスト	特になし。				
参考文献	授業で適宜紹介。				
担当教員の専門分野等	小学校教員として長く勤務し、国語・ことば分野を重点的に研究。日本カウンセリング学会認定カウンセラー。大学等で、幼児と言葉・保育内容指導法(言葉)・文章表現・言語文化表現・教育相談(カウンセリング)等の授業を担当。「教師・保育者のための教育相談」(共著・萌文書林)を出版。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育原理 必修 講義		講 師	岸 久美子
授業概要	テキストを使って、保育に関する法令や制度について理解する。 また、日本及び海外における保育の歴史、教育者について学ぶ。			
授業目標	1. 保育の意義及び目的について理解する。 2. 保育に関する法令及び制度を理解する。 3. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 4. 保育の思想と歴史的変遷について理解する。 5. 保育の現状と課題について理解する。			
到達目標1	保育所保育指針、児童福祉法など、保育士として必要な法令、制度を理解する。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	4回目、9回目、14回目に試験を実施、合計100点とする。 合計点の50% (50点) を充てる。	
到達目標2	授業に休まず出席し、積極的に発言等参加する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	出席 (25点)、授業の参加度 (25点)	
授業方法	テキストのWorkを使って、法令、制度を理解する。			
授業計画	1 ガイダンス 5領域、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」			
	2 Unit1 保育の方向性と保育実践の基礎となる発達観			
	3 Unit2 保育に関する諸法令などからみる保育の原理			
	4 テストⅠ Unit1&2の復習			
	5 オンライン Unit3より 保育所保育指針にみる保育の原理 Unit4 養護と教育の一体化について			
	6 産学連携			
	7 産学の振り返り Unit5 保育実践の基本構造について			
	8 Unit6 多様な保育内容とその方法 Unit7 子育て支援について学ぶ			
	9 テストⅡ Unit3～7の復習			
	10 Unit8 西洋と日本の保育の創成期 Unit9 西洋の保育実践の発達過程			
	11 Unit10 日本の保育実践の発達過程 Unit11 倉橋惣三に学ぶ Unit12 保育者の在り方を考える 産学の課題について			
	12 産学連携			
	13 産学の振り返り Unit13 これからの保育に向けて			
	14 Unit8～13の復習			
	15 テストⅢ 総復習			
必須テキスト	佐伯一弥ほか「Workで学ぶ保育原理」改訂2版 わかば社			
参考文献	平成29年告示保育所保育指針 その他、随時、授業時に紹介する			

担当教員の 専門分野等	保育園において音楽指導を行っている。また、協力園において、保育者養成校と保育現場における連携について研究を行っている。 現在、大学院博士後期課程にて保育学を専攻している。				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	30%	
	社会人としての基本	40%	主体性 素直 思いやり	%	
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	30%	

2024年度 講義要綱

科 目	教育原理		必修 講義	講 師	濱本 潤毅
授業概要	「教育」とはそもそも何かという問いを、思想・歴史・現代社会の三つの視点から考えるを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深める。				
授業目標	1. 教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて理解する。 2. 教育の思想と歴史の変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。 3. 教育の制度について理解する。 4. 教育実践の様々な取り組みについて理解する。 5. 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。				
到達目標1	授業内容を実体験にそくして理解し、自分なりの考えを表現することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・グループワーク等への参加度(30点) 毎回のリアクションペーパー(20点)		
到達目標2	教育に関する概念について問いを立て、文献を通して調べることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	毎回のリアクションペーパー(20点) 学期末のレポート(30点)		
授業方法	スライド資料・ビデオ教材を使った講義形式。ディスカッションやグループワークも適宜行う。				
授業計画	1 思想①: イントロダクションー「教育」のそもそもを考える				
	2 思想②: 「教える」とはどういうことか				
	3 思想③: 「子ども」とはどういう存在か				
	4 思想④: 「学校」は何のためにあるのか				
	5 歴史①: 近代日本の「学校」のはじまり				
	6 産学連携				
	7 歴史②: 大正時代の「教養」と新教育				
	8 歴史③: 戦時中・戦後の教育と「民主主義」				
	9 歴史④: 高度経済成長と「若者」の誕生				
	10 歴史⑤: 現代の「教育問題」				
	11 現代①: 「学び」と学力・能力				
	12 産学連携				
	13 現代②: 学校と「地域」社会の関係				
	14 現代③: 教育における「ジェンダー」				
	15 現代④: 教育と「テクノロジー」のこれから				
必須テキスト	神代健彦・後藤篤・横井夏子『これからの教育学』有斐閣、2023年				
参考文献					
担当教員の専門分野等	教育哲学専攻。専門は発達に関する思想史研究。東京大学教育学研究科博士課程在籍。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	30 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %	

2024年度 講義要綱

科 目	子ども家庭福祉		必修 講義	講 師	秋山 雅代
授業概要	本授業では、子どもと子どもを取り巻く環境についての基礎的な理解を深め、福祉専門職として子ども・家庭福祉に関する現状と課題を主体的に捉えることを目的とする				
授業目標	1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭(家族)福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭(家族)福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭(家族)福祉の福祉の展望について理解する。				
到達目標1	福祉専門職として、現在社会と子ども家庭福祉の現状や課題、福祉制度や福祉サービスの実際、展望について説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業内で行う理解度を確認するための小レポートか確認テスト(50点)		
到達目標2	福祉専門職として、子どもの人権擁護について意見を述べるができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業内で行う理解度を確認するための小レポートか確認テスト(25点) 授業内でのグループ討議の内容や発表回数で評価(25点)		
授業方法	パワーポイントやレジュメ、映像資料などを用いた講義形式。				
授業計画	1 オリエンテーション 子どもや家庭を取り巻く環境の変化(1)				
	2 子どもや家庭を取り巻く環境の変化(2)				
	3 子ども家庭福祉の歴史				
	4 子ども家庭福祉の制度と法律や実施体制(1)				
	5 子ども家庭福祉の制度と法律や実施体制(2)				
	6 産学連携				
	7 少子化と子育て家庭へのサービス				
	8 子育て支援と子どもに関する諸課題 その1 子ども虐待とは				
	9 子育て支援と子どもに関する諸課題 その2 DV(ドメスティックバイオレンス)とは				
	10 子育て支援と子どもに関する諸課題 その3 ひとり親家庭に関する支援				
	11 地域における連携と協働とネットワーク				
	12 産学連携				
	13 子どもの権利保障(1)				
	14 子どもの権利保障(2)				
	15 まとめ				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	講義ごとに紹介する				
担当教員の専門分野等	社会的養護、ソーシャルワーク、多職種連携				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	50 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	10 %	

2024年度 講義要綱

科 目	社会福祉		必修 講義	講 師	久利 要子
授業概要	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、相談援助の実際について学ぶ。 子ども家庭支援の視点に立ち、最新動向をふまえて現場の実践に関連づけながら学習する。				
授業目標	1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3. 社会福祉における相談援助について理解する。 4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 5. 社会福祉の動向と課題について理解する。				
到達目標1	1.子育て家庭の生活課題について、現代の社会状況をふまえて広い視野で考えることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	課題の提出状況等、授業への取り組み度(25点)・講義内容に関する筆記試験(25点)		
到達目標2	2.相談援助や利用者保護の仕組みを理解し、社会福祉の今後の展望に自らの関心を向けていくことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	課題の提出状況等、授業への取り組み度(25点)・講義内容に関する筆記試験(25点)		
授業方法	講義形式。テキストの内容に関連する最新資料や映像教材なども活用していく。				
授業計画	1 オリエンテーション・社会福祉の理念と概念				
	2 社会福祉の歴史の変遷				
	3 子ども家庭支援と社会福祉				
	4 社会福祉の制度と法体系				
	5 社会福祉の実施機関				
	6 産学連携				
	7 社会福祉の専門職				
	8 社会保障及び関連制度の概要				
	9 相談援助の理論				
	10 相談援助の意義と機能				
	11 相談援助の対象と過程				
	12 産学連携				
	13 相談援助の方法と技術				
	14 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み				
	15 今後の展望・学習のまとめ(筆記試験)				
必須テキスト	『十訂 保育士をめざす人の社会福祉』相澤譲治編、株式会社みらい				
参考文献	『社会福祉小六法2024』ミネルヴァ書房 など(授業中に適宜、紹介します。)				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育士、社会福祉士として母子生活支援施設や高齢者在宅支援の現場で相談業務を経験し、「ソーシャルワーカーとしての保育士の役割」を研究テーマとしている。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	30 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %	

2024年度 講義要綱

科 目	社会的養護Ⅰ 必修 講義			講 師	錫田 陽介
授業概要	社会的養護に関する基礎的な知識(歴史や法制度など)を学ぶ。 児童虐待についての基本的な考え方や現状などを学ぶ。 要保護児童や被虐待児の特徴やその支援方法について学ぶ。 子どもの権利擁護の歴史的変遷や現在の内容について学ぶ。				
授業目標	現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 社会的養護の現状と課題について理解する。				
到達目標1	現代社会における社会的養護の役割と立ち位置を理解し、具体的に説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点) 講義内容に関する筆記試験(20点)		
到達目標2	社会的養護の現状と現在の課題について、論理的に理解し、説明することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	レポート提出(40点) グループディスカッションへの取り組み度(10点)		
授業方法	講義中心で進めていくが、状況に応じて、事例考察やグループワークなどを取り入れて行っていく。				
授業計画	1 オリエンテーション(授業形式・成績評価について) 社会的養護を学ぶ意味と必要性				
	2 社会的養護の基本的な考え方と歴史				
	3 社会的養護に関わる法制度とその歴史				
	4 児童虐待の種類と現状				
	5 社会的養護の様々な形態				
	6 産学連携				
	7 家庭的養護一里親とはなにか?一				
	8 社会的養護施設の現状①一子どもたちの生活の姿一				
	9 社会的養護施設の現状②一支援の原理原則一				
	10 社会的養護施設の現状③一愛着障害と発達障害の理解一				
	11 社会的養護施設の現状④一地域連携一				
	12 産学連携				
	13 社会的養護施設の現状⑤一関係機関との連携一				
	14 社会的養護施設の今後の展望				
	15 テストと授業の振り返り				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	授業内で紹介します。				
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。児童養護施設・発達障害児支援施設での勤務経験あり。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	40 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	10 %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育の心理学		必修 講義	講 師	小沢 恵美子
授業概要	保育所にいる乳幼児期を中心に、子どもの発達について学習する。 今までの自分の経験と授業内容を関連させて、子どもの行動や人間の発達を理解する。				
授業目標	1. 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 3. 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。				
到達目標1	子どもの発達に関する心理学の基本的知識に基づき、 子どもの発達について具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関する筆記期試(50点)		
到達目標2	自分が保育者となった時のことを考えながら、子どもや 保護者への具体的な対応を述べることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組みやリアクションペーパー(15点)、レ ポート(35点)		
授業方法	テキストを使いながら、授業内容をプリントにまとめていく。 可能であれば各自の考えを発表する機会なども設ける。				
授業計画	1 ガイダンス、子どもの発達と環境				
	2 情緒の発達				
	3 自我の発達				
	4 愛着の形成				
	5 愛着行動と愛着の発達				
	6 産学連携				
	7 社会的相互作用				
	8 認知の発達①				
	9 認知の発達②				
	10 コミュニケーションの発達				
	11 乳幼児期の学びにかかわる理論				
	12 産学連携				
	13 動機づけ				
	14 発達障害について				
	15 全体のまとめ				
必須テキスト	『保育の心理学 実践につなげる、子どもの発達理解』井戸ゆかり編著、萌文書林				
参考文献	授業中に適宜紹介します。				
担当教員の 専門分野等	発達心理学や教育心理学の授業を担当してきました。発達心理学でも「子ども(幼児期)」の分野に興味があります。				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	15 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %	

2024年度 講義要綱

科 目	子どもの理解と援助		必修 講義	講 師	錫田 陽介
授業概要	様々な児童福祉施設で生活する子ども達の様子、現状を学ぶ中で、子どもの「発達」を捉える視点を養う。子どもの健やかな発達に必要な「環境」と「関わり」について理解を深め、その担い手になるための準備を進める。				
授業目標	1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する				
到達目標1	子どもの育ちを支える児童福祉施設について、主要施設の概要や現状について説明できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関する筆記試験(40点)		
到達目標2	子どもの育ちを支える児童福祉施設への興味を養い、担い手となる自分をイメージし、自らに必要な準備を進めることができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(20点)、講義内容に関するレポート試験(40点)		
授業方法	ワークシートを用いた講義				
授業計画	1 オリエンテーション:「子どもの理解とは？」(授業概要・目標・評価・持物等の説明)				
	2 子どもの育ちを支える現場を知る				
	3 子どもの育ちを支える現場①:乳児院				
	4 子どもの育ちを支えるために必要なこと①:乳児院の現場から				
	5 子どもの育ちを支える現場②:児童養護施設				
	6 産学連携週				
	7 子どもの育ちを支えるために必要なこと②:児童養護施設の現場から				
	8 子どもの育ちを支える現場③:母子生活支援施設				
	9 子どもの育ちを支えるために必要なこと③:母子生活支援施設の現場から				
	10 子どもの育ちを支える現場④:障害児入所施設				
	11 子どもの育ちを支える現場⑤:障害児通所施設				
	12 産学連携週				
	13 生涯にわたる支援の現場:障害者入所施設／通所施設				
	14 「理解と援助」のために:障害者支援施設の現場から				
	15 学期末試験				
必須テキスト	『ひと目でわかる 保育者のための児童家庭福祉データブック2023』全国保育士養成協議会(監修)、宮島清・山縣文治(編集)、中央法				
参考文献	授業中に適宜紹介する				
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。児童養護施設・発達障害児支援施設での勤務経験あり。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %	

2024年度 講義要綱

科 目	子どもの保健		必修 講義	講 師	中村 直美
授業概要	①子どもの身体の発育、発達の基本を学ぶ。②子ども特有の身体症状や病気について学ぶ。 上記①②の知識を踏まえて 子どもの心身の健康の維持、増進の方法や現状と課題について考えていく。				
授業目標	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。				
到達目標1	1.子どもの身体発育、発達の基本、子ども特有の身体症状や病気の基本を知り、それを踏まえた保育の中での保健的対応について、具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(30点)講義内容に関する筆記試験(20点)		
到達目標2	2.子ども特有の健康に関する問題、課題を知り健康の維持、増進について関心を持つことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(30点)講義内容に関する筆記試験(20点)		
授業方法	1, パワーポイントを使用した講義形式 2, 事例ワーク等を通して保育所での保健活動の実際等を紹介				
授業計画	1 オリエンテーション(この授業で学ぶこと、授業のすすめかた等について)				
	2 健康の概念について				
	3 子どもの身体発育の特徴について				
	4 子どもの運動機能の発育、原始反射について				
	5 新生児の理解と特徴的な病気について				
	6 産学連携				
	7 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気①(脳)				
	8 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気②(感覚器)				
	9 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気③(循環器)				
	10 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気④(呼吸器)				
	11 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気⑤(消化器)				
	12 産学連携				
	13 子どもの健康状態の観察とよくみられる症状について				
	14 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題について				
	15 試験・まとめ				
必須テキスト	最新 保育士養成講座 第7巻 「子どもの健康と安全」				
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布予定。				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等(保育所、高齢者施設等)における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所にて勤務。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

2024年度 講義要綱

科 目	子どもの食と栄養		必修 講義	講 師	高尾 優
授業概要	栄養に関する基礎知識を身につけ、子どもの発育・発達に必要な栄養、および成人の栄養について学び、自身の食生活についても考える力を養う。 また、保育の現場で重要な食育について学ぶ。児童福祉施設や家庭での食と栄養、食の安全、疾患のときの食と栄養、肥満ややせの子どもの食と栄養、障がいのある子どもの食と栄養についても学習する。				
授業目標	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「保育所における食事の提供ガイドライン」(平成24年3月、厚生労働省)等				
到達目標1	栄養の基礎的な知識を身に付ける。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出席および授業の取り組み・課題(20点)受講態度、課題の提出状況などを評価します。 定期テスト(30点)		
到達目標2	子どもたちをとりまく環境について考え、子どもの食生活の現状と課題について理解できる。保育所における食育について理解する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループディスカッションを行い、課題と改善方法について考える。(30点) 定期テスト(20点)		
授業方法	講義および演習を行う。授業内容の復習のための小テストを実施する。				
授業計画	1 子どもの健康と食生活の意義(子どもを取り巻く環境、子どもの食生活の現状と課題)				
	2 栄養に関する基本的知識① 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能				
	3 栄養に関する基本的知識② 消化と吸収、栄養素の代謝				
	4 栄養に関する基本的知識③ 栄養バランスのとれた食事、調理の基本				
	5 発育・発達と食生活① 小児期の発育と発達、妊娠・授乳期の栄養				
	6 産学連携				
	7 発育・発達と食生活② 乳児期の栄養(乳汁栄養・離乳栄養)				
	8 発育・発達と食生活③ 幼児期・学童期の食生活、生涯発達と食生活				
	9 食育の基本				
	10 児童福祉施設や家庭における食事と栄養				
	11 食の安全(食中毒)				
	12 産学連携				
	13 特別な配慮を要する子どもの食と栄養① 体調不良および疾病の子どもへの対応				
	14 特別な配慮を要する子どもの食と栄養② 食物アレルギーのある子ども、障がいのある子どもへの対応				
	15 定期試験				
必須テキスト	今津屋直子・久藤麻子編著 新・子どもの食と栄養 教育情報出版 2022				
参考文献					
担当教員の専門分野等	小児栄養学(食育、食物アレルギー)				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育の計画と評価 必修 講義			講 師	佐藤 博美
授業概要	保育の計画と評価とはなにかを理解する。保育の計画と実践との関係を体験を通して学びを深め、知識を技能を身につける。				
授業目標	1. 保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 2. 全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 3. 保育のPDCAを理解し、活用することができる。				
到達目標1	保育における保育計画の意義と重要性を理解することができる。 子ども理解に基づく保育実践を体験し、子どもはあそびにより学び、成長している事を説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(30%)、テスト(20%)		
到達目標2	子ども主体の指導計画の意味を理解し、指導計画を立案することができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	テスト(20%),課題 (30%)		
授業方法	講義、調べ学習、発表など				
授業計画	1 保育に関する法令、制度を理解する				
	2 保育の指導計画の種類を知る				
	3 PDCAを理解し、保育のPDCAの重要性を理解する				
	4 保育士の行動には、必ず意図がある事を知り、実習時に察する重要性を理解する				
	5 子どもの環境を整える重要性を理解する				
	6				
	7 指導計画を作成する際の留意する点について知る				
	8 指導計画の立案に挑戦する				
	9 自ら立案した指導計画を実践する				
	10 指導計画をふりかえり、PDCAを行う				
	11 様々な指導計画があり、細かい配慮と計画の上に保育が実践されている事を知る				
	12				
	13 子育ては、みんなで行う事が子どもの幸せにつながる事を理解する				
	14 学びをまとめ、試験対策を行う				
	15				
必須テキスト	マンガでわかる「保育所保育指針」中央法規				
参考文献					
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。幼稚園、保育所勤務経験。研究領域発達支援、グローバル保育。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育内容総論		必修 講義	講 師	岸 久美子
授業概要	テキストを中心に、幼児教育における指導の方法や具体的な保育の過程について学ぶ。 また、保育現場の事例を通して、どのようにして子ども達の発達を支えているのか理解する。				
授業目標	1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解する。				
到達目標1	保育所保育指針等における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 保育所の役割りについて理解する。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	期末試験100点(50%)＝50点		
到達目標2	幼児の趣味や関心、発達などに応じた具体的な指導方法について理解する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	出席(25%)＝25点 小テスト(15%)＝15点 授業の参加度(15%)＝10点		
授業方法	テキストを用いた講義形式。必要に応じてグループワークを行なう。				
授業計画	1 ガイダンス／保育所保育指針に基づく保育の全体構造				
	2 保育所保育指針に基づく保育内容の理解①				
	3 保育所保育指針に基づく保育内容の理解②				
	4 保育内容の歴史の変遷とその社会的背景				
	5 オンライン 子ども主体性を尊重する保育 産学の課題について				
	6 産学連携				
	7 産学の振り返り 子どもの発達や生活に即した保育内容の基本的な考え方				
	8 小テスト 1～7回目の振り返り				
	9 個と集団の発達をふまえた保育				
	10 家庭や地域との連携をふまえた保育／小学校への接続を踏まえた保育				
	11 オンライン 環境を通して行う保育 生活や遊びによる総合的な保育 産学の課題について				
	12 産学連携				
	13 長時間の保育 特別な配慮を要する子どもの保育 多文化共生の保育				
	14 科目まとめ				
	15 期末試験				
必須テキスト	新基本保育シリーズ④保育内容総論(中央法規)				
参考文献	保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(フレーベル館) その他、授業内で随時紹介する。				
担当教員の専門分野等	保育園において音楽指導を行っている。また、協力園において、保育者養成校と保育現場における連携について研究を行っている。 保育者養成校に、ピアノをはじめ実習等の担当として約20年勤務。 現在、大学院博士後期課程にて保育学を専攻している。				
	職業に対する理解	幼児教育の専門家として、 子ども一人ひとりに寄り添う (15%) %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	幼児教育の現状に興味・関心を持って考えることができる (20%) %	

この授業で 身につく 「6つの力」	社会人としての基本	自己管理ができ、社会人としてのモラルがある(25%) %	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	グループディスカッションにおいて、相手の意見を認め、積極的に参加することができる(20%) %	専門的知識・技術	保育者としての専門的な知識を基にして考えることができる(20%) %

2024年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・身体表現遊びⅠ		必修 講義	講 師	真砂 雄一
授業概要	子ども達に運動遊びの楽しさを教えるためにも、まずは学生自身が運動遊びを体験する。 そして、子どもたちの表現と運動に関する知識を身に付ける。 環境構成について考え、展開するための技術を学ぶ。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	子どもの運動、表現遊びについての基礎知識を説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、講義内容に関するレポート(30点)		
到達目標2	子どもの発育発達に沿った運動遊びについて理解し、実践できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループワークでの貢献度(20点)、実践発表(30点)		
授業方法	保育現場でどのような運動遊びが求められているか、実践を通し考えを深めていく。 運動遊びの援助・指導・安全管理等、環境構成、計画立案等、様々な形の学習を体験する。 対面授業は1回目からすべて7階 A71教室にて行う。 ＊社会情勢や進行状況に合わせ内容や順番を適宜変更する。				
授業計画	1 ガイダンス・からだほぐし 2 身体表現 3 ボール遊び① 4 リズム遊び・鬼ごっこ 5 幼児期に必要な運動とは①(オンライン) 6 産学連携 7 ボール遊び② 8 運動遊び実践の計画立案作成／グループ決め 9 運動遊び実践① 10 運動遊び実践② 11 幼児期に必要な運動とは②(オンライン) 12 産学連携 13 運動遊び実践③ 14 運動遊び実践④ 15 身体表現遊びのまとめ、振り返り、レポート試験				
必須テキスト	特に必要なし				
参考文献	授業中に紹介する				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。 現在短大にて、幼児体育や健康を担当する准教授として勤務。 小学校で体育テクニカルアドバイザーの経験あり。保育園にて運動指導アドバイザー。 専門分野:幼児体育、身体表現、健康科学				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	40 %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・音楽遊びⅠ		必修 講義	講 師	島内 亜津子、高山 美帆、渡辺 容子
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。 ※個人レッスンの待機時間も含め、電子ピアノで自主練習をおこなう際、法定伝染病感染予防のため必ずイヤホンかヘッドフォンを持参してください。(備え付けはありません)				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	・教科書に沿って鍵盤楽器(ピアノ等)の基礎を学びつつ自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨むことが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(20点)、実技試験発表(30点)		
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、自信を持って伝えたいことが表現出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(20点)、実技試験発表(30点)		
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンとを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。またオンラインの個人レッスンでは画面に手元を映すよう工夫すること。				
授業計画	1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(A) ②グループに分かれて45分で入れ替わる) 2 ④ピアノ等による個人レッスン／⑥歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。 3 ④ピアノ等による個人レッスン／⑥保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布する。) 4 ④ピアノ等による個人レッスン／⑥現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法) 5 ④ピアノ等による個人レッスン／⑥子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。 6 産学連携 7 ④ピアノ等による個人レッスン／⑥わらべ歌・手遊び歌の演習 8 ④ピアノ等による個人レッスン／⑥童謡・唱歌等の子どもの歌の演習 9 ④ピアノ等による個人レッスン／⑥簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ) 10 ④ピアノ等による個人レッスン／⑥リトミックを含む歌遊びの演習 11 ④ピアノ等による個人レッスン／⑥互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。 12 産学連携 13 ④ピアノ等による個人レッスン／⑥個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。 14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導 (A) ⑥共) 15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(A)⑥共)				
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの歌』教育芸術社				
参考文献	『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編				
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %	
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・造形遊びⅠ 必修 講義		講 師	目黒 祥元
授業概要	造形遊びの実習を通じて、子供の頃の感覚をしばし取り戻し、造形遊びを楽しみながら基礎技能を体験し、身につけ、保育における造形遊びの意味や本質について学んでゆく			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容 を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践 的に習得する 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術 を実践的に習得する			
到達目標1	幼児造形で使用する教材を理解し、モダンテクニックなど基礎技法ができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	取り組んだ指定課題の提出状況(40点) 提出作品の評価(10点)	
到達目標2	画材を活用し、主体的に造形遊びができる 壁面装飾などにおいて、アイデアを持って取り組むことができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	画材の扱い方、課題製作への取り組み方(30点) 準備から片付けまで、制作の展開を考えて必要な配慮をしている。(20点)	
授業方法	造形遊びの課題を設定して造形制作の実習を行います 制作は、授業時間内に行い、持ち帰りの制作は原則認めません 課題作品は、授業内に提出してください、採点資料になります また、校内の壁面装飾にも使用します。			
授業計画	1 授業の進め方、用具、画材、課題の提出方法などについて説明します そのあと、紙工作をして、まずは造形遊びを体験します ＊状況により授業内容を変更する場合があります			
	2 モダンテクニックの体験 ドロッピングなど ＊モダンテクニックとは、紙、絵の具、クレヨン、クレパスなどを使用した、デカルコマニー、ドリッピング、ブローイング、スクラッチなどの基礎技能のことです これを発展応用させて美術専門家も使用する平面造形の基本技能です まずは基礎的な造形遊びを、体験してゆきます			
	3 ビー玉転がし、デカルコマニー 後日できた作品を壁面装飾 ＊状況により授業内容を変更する場合があります			
	4 糸引き絵、吹き散らし絵 ＊状況により授業内容を変更する場合があります			
	5 紙工作			
	6 産学連携			
	7 スタンピング できた作品を壁面装飾			
	8 写し取って遊ぶ できた作品を壁面装飾 ＊状況により授業内容を変更する場合があります			
	9 版を作る			
	10 版を刷って、できた作品を壁面装飾			
	11 モダンテクニック スクラッチ絵			
	12 産学連携			
	13 パルプ粘土を使った工作			
	14 13回授業で作った粘土工作に色をつけて仕上げる			
	15 紙のメダルを作って遊ぶ			
必須テキスト				
参考文献	特に指定しないが、幼児造形に限らず、美術全般に幅広く関心を持ってもらいたい			
担当教員の専門分野等	美術家 本校においては、資格試験の実技指導に当たる			

この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	5 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	5 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	50 %

2024年度 講義要綱

科 目	乳児保育Ⅰ		必修 講義	講 師	佐藤 めぐみ
授業概要	・乳児保育の意義・目的と役割を学び、乳児保育の現状と課題を知る。 ・3歳未満児の発育・発達をふまえた保育を学ぶ。				
授業目標	1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す				
到達目標1	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解することができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に対するテスト(50点)		
到達目標2	多岐にわたる「乳児保育」の内容について知が必要な事は自ら調べリアクションペーパーにまとめることができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	リアクションペーパー(30点)授業への取り組み(20点)		
授業方法	授業で学んだ範囲を自ら調べたり、感じたことをリアクションペーパーへ記入してまとめる。				
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価・持ち物について等)				
	2 乳児保育はなぜ必要か				
	3 乳児保育の成り立ち				
	4 保育所保育指針から学ぶ				
	5 人生の基礎としての乳児期				
	6 産学連携				
	7 小テスト(第1回～第5回までの授業を振り返る)				
	8 乳児のこころの発達				
	9 乳児のことばの発達				
	10 乳児のからだ				
	11 乳児保育の連携				
	12 産学連携				
	13 保育所の1日の流れ				
	14 小テスト(第8回～第13回までの授業を振り返る)				
	15 まとめ				
必須テキスト	「はじめて学ぶ 乳児保育」同文書院				
参考文献	授業中に適宜紹介				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。長年私立保育園に勤務し、主任として実習指導や職員育成に携わる。専門は「乳児保育」。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	25 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	5 %	
	他者と関わる力	5 %	専門的知識・技術	35 %	

2024年度 講義要綱

科 目	乳児保育Ⅱ		必修 講義	講 師	佐藤 めぐみ
授業概要	・乳児保育の基本を知り、乳幼児期の生活と援助の方法を体験する。 ・3歳未満児の発育、発達をふまえた保育を深める。				
授業目標	1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。				
到達目標1	座学で学んだ抱っこ、沐浴、着替え、授乳を適切に行える。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	実技への取り組み(40点)授業への取り組み(10点)		
到達目標2	多岐にわたる乳児保育について知り、毎回自分でリアクションペーパーに課題をまとめることが出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	リアクションペーパー(50点)		
授業方法	・講義内容から自分の考えをリアクションペーパーに記入 ・抱っこ、沐浴、着替え等の介助を実際に行う体験型学習				
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価・持ち物等の説明)				
	2 だっこのしかた・おんぶのしかた				
	3 だっこのしかた・おんぶのしかた【実践】				
	4 乳児の衣服の基礎、衣服の着せ方・脱がせ方				
	5 おむつ替えとおむつはずれ				
	6 産学連携				
	7 赤ちゃんの着替えとおむつ替え【実践】				
	8 授乳の仕方と離乳食の基礎知識				
	9 授乳の仕方とその準備【実践】				
	10 乳児保育の安全管理				
	11 沐浴の仕方・清拭の仕方				
	12 産学連携				
	13 沐浴の仕方・清拭の仕方【実践①】				
	14 沐浴の仕方・清拭の仕方【実践②】				
	15 まとめ				
必須テキスト	「はじめて学ぶ 乳児保育」同文書院				
参考文献	授業中に適宜紹介				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。長年私立保育園に勤務し、主任として実習指導や職員育成に携わる。専門は「乳児保育」				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	5 %	
	社会人としての基本	5 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

2024年度 講義要綱

科 目	子どもの健康と安全		必修 講義	講 師	中村 直美
授業概要	保育における健康、安全の管理に関する知識を知り、具体的な方法を体験し、自分自身や仲間と考えることで実践力を養っていく。				
授業目標	1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 4. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。 5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドライン(※)や近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。 6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「2012年改訂版保育所における感染症対策ガイドライン」(平成24年11月、厚生労働省)、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省)等				
到達目標1	1.保育現場における保健的観点を踏まえた衛生管理や感染対策についての基礎知識を知り、具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(30点)講義内容についての試験(20点)		
到達目標2	2.保育現場における保健的観点を踏まえた安全管理や救急対応についての基礎知識を知り、具体的に説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(30点)講義内容についての試験(20点)		
授業方法	パワーポイントを使用した講義で基本を学び、グループワークや演習で体験し、学習を深めていく。				
授業計画	1 オリエンテーション(この授業で学ぶこと、授業のすすめかた等について) 2 健康観察(身体測定、健康診断)と年間保健計画について 3 保育環境の整備、衛生管理について 4 子どもの事故の特徴について 5 保育所での事故防止と安全管理について 6 産学連携 7 災害への備えと危機管理について 8 体調不良や傷害の対応について 9 救急時の対応について 10 子どもと感染症①(基礎知識) 11 子どもと感染症②(標準予防策、保育所での集団発生への対応) 12 産学連携 13 子どもと感染症③(嘔吐処理の方法) 14 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応(食物アレルギー)について 15 試験・まとめ				
必須テキスト	全国社会福祉協議会 最新 保育士養成講座第7巻 「子どもの健康と安全」				
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布予定。				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等(保育所、高齢者施設等)における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所にて勤務。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

2024年度 講義要綱

科 目	社会的養護Ⅱ		必修 講義	講 師	錫田 陽介
授業概要	社会的養護における具体的な支援内容を学ぶ。 支援の基盤となる支援計画の作成方法を学び、実践する。 自身の価値観や考え方の傾向について演習を通して理解を深める。				
授業目標	社会的養護における支援計画及び具体的な支援方法について理解する。 自身の性格や傾向を知り、専門職としての意識を高める。				
到達目標1	社会的養護の具体的な支援方法を理解した上で、施設実習に挑む心構えを作る事ができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(30点) 筆記試験(20点)		
到達目標2	保育士の社会的意義を理解して、どのような役割を持っているかを理解し、就職後の心構えを作ることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業ごとのレポート(40点) ディスカッションへの参加態度(10点)		
授業方法	個人・グループでの演習を多く取り入れ、主体的な参加型の授業を行う。 授業内容を踏まえた社会的養護に関するテーマでレポートを作成する。				
授業計画	1 オリエンテーション(授業方法や成績評価)／社会的養護Ⅰの復習				
	2 社会的養護施設の子どもたちへの理解				
	3 子どもの権利				
	4 生活支援と治療的支援				
	5 自立支援とアフターケア				
	6 産学連携				
	7 子どもと向き合うということ				
	8 社会的養護を必要とする親子への理解				
	9 愛着障害児への理解と支援方法				
	10 情報収集とアセスメント				
	11 自立支援計画の作成				
	12 産学連携				
	13 ケーススタディ				
	14 社会的養護の教科の振り返りと今後の展望				
	15 テストと授業の振り返り				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	授業内において紹介。				
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業に該当。児童養護施設・発達障害児支援施設での経験あり。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育実習指導 I a		必修 講義	講 師	佐藤 めぐみ
授業概要	実習日誌の記載方法を体得したり、実習に向けて具体的な準備を進め、実技の練習、心構えを養い、保育所実習を有意義なものにするために必要事項を学ぶ。				
授業目標	1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。				
到達目標1	子どもや保育士に対する理解を深め、現場での実習生としての自分の姿をイメージできる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点)、保育園見学への参加やそれにまつわる提出物(20点)		
到達目標2	保育所実習に臨む態度や目的意識が持つことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	準備・発表(20点)その他提出物(10点)筆記試験(20点)		
授業方法	講義、発表、グループワークなど				
授業計画	1 保育実習の概要 ペーパーサート紹介				
	2 .実習の心得 個人票作成				
	3 保育所の1日の流れと保育内容の理解 実習目標を立てる				
	4 実習日誌を書く意義と記入の仕方				
	5 実習日誌:エピソード記録の書き方について				
	6 産学連携				
	7 部分実習指導計画について				
	8 実習に伴う書類作成 事務手続きの確認 実習課題				
	9 オリエンテーションについて 実習日誌の書き方				
	10 グループワークによる手遊び・絵本の指導案作成				
	11 実習日誌:ドキュメンテーション記録について				
	12 産学連携				
	13 手遊び・絵本の読み聞かせの発表・ペーパーサートの発表				
	14 まとめと振り返り・お礼状の書き方				
	15 試験 最終確認				
必須テキスト	「フォトランゲージで学ぶ～子どもの育ちと実習日誌・指導計画～」(萌文書林) 「平成29年告示 保育所保育指針」(チャイルド社)				
参考文献					
担当教員の専門分野等	幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育所での実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育実習指導 I b		必修 講義	講 師	錫田 陽介
授業概要	様々な施設の現場に立ち、対象者との関わりを通して学ぶ「施設実習」を行う際に必要となる知識や視点を養い、「施設実習」で得る貴重な経験を、より有意義な学びとできるよう、具体的な準備を進める。				
授業目標	1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務 等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や 目標を明確にする。				
到達目標1	講義内容を理解し、要点をまとめ、自らの考えを文章として記すことができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関するノート提出(60点)		
到達目標2	実習に臨むにあたり、目的意識や自らの課題を具体的に記すことができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(20点)、実習目標の作成(20点)		
授業方法	ノート作成を伴う講義受講				
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・方法・評価・持物等の説明)				
	2 子どもの育ちの理解①:愛着障害(1)				
	3 子どもの育ちの理解②:愛着障害(2)				
	4 関わりの技術①:実際の実習より(ロールプレイ)				
	5 関わりの技術②:「視点」を養う				
	6 産学連携週				
	7 子どもの育ちの理解③:発達障害				
	8 関わりの技術③:療育場面より				
	9 施設実習先の発表				
	10 施設実習への具体的準備①:個人票作成、オリエンテーション準備				
	11 施設実習への具体的準備②:実習目標の作成(1)				
	12 産学連携週				
	13 施設実習への具体的準備③:実習目標の作成(2)				
	14 実習日誌の理解と練習				
	15 施設実習への具体的準備:実習前／実習中／実習後にすること				
必須テキスト	特になし				
参考文献	授業中に適宜紹介する				
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。児童養護施設・発達障害児支援施設での勤務経験あり。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	25 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	25 %	専門的知識・技術	10 %	

2024年度 講義要綱

科 目	子どもと保育		選択必修 講義	講 師	佐藤 めぐみ
授業概要	保育の本質、目的、意義を実践的に学ぶ。 実習生としての基礎知識、技量を身につけ、実習への準備をすすめながら、実習への期待を持つ。				
授業目標	保育所の基本的な事柄を学び、実習について準備を進める。 現場活動を通して、実践で活躍する人材へと成長する。				
到達目標1	実習への準備の基本として、授業に毎回出席する、提出物の期限を守る、報連相を行うことができる。(①コマ目)	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点)、課題(15点)、提出物(15点)		
到達目標2	実習をイメージしながら、実習に必要なスキルを習得する。(②コマ目)	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点)、課題(15点)、提出物(15点)		
授業方法	実習をイメージするために必要な基礎知識を学びと共に、手遊びや折り紙など実践的なスキルを高める。				
授業計画	1 「オリエンテーション」授業のルールと自分の学ぶべき事を理解する 2 「保育所の一日」一日のながれを知り、実習をイメージする 3 「森口先生の特別講演」保育現場の先生の講演により、保育の重要性を理解する 4 「環境図」実習日誌の最初のステップとして、環境図をかくことができる 5 「スケッチブックシアター」の制作と「保育所見学」の準備を行う 6 産学連携現場活動 7 「映像から学ぶ」色々な保育園があり、新人保育士の頑張っている姿から自分の将来をイメージする 8 「実習のながれ」を知り、実習までの道しるべをイメージする 9 「お礼状の書き方」を知り、実践する 10 保育士の話を聞き、保育の楽しさを知る 11 「日誌の書き方①」日誌の基本的な約束ごとを知り、日誌を写す 12 産学連携現場活動 13 「日誌の書き方②」保育所見学したことを日誌に記入する 14 「まとめ」前期授業で学んだ事を整理し、実習への道しるべを立てる 15 わくわくタイム				
必須テキスト	なし				
参考文献	なし				
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業 幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育士としての実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %	

2024年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・音楽遊びⅡ		選択必修 講義	講 師	
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。コードネームによる簡易伴奏の仕組みを知り、まずハ長調の曲で演習していく。 ※個人レッスンの待機時間も含め、電子ピアノで自主練習をおこなう際、法定伝染病感染予防のため必ずイヤホンまたはヘッドフォンを持参してください。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	教科書や「はじめての弾き歌い」のハ長調のコードネームによる弾き歌い等について自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨み、子どもたちへの視点を持った弾き歌いが出来る。		到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(20点)、実技試験発表(30点)	
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、環境、生活、人間関係等のそれぞれの歌のねらいを知り、自信を持って伝えたいことが表現出来る。		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(20点)、実技試験発表(30点)	
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンとを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。またオンラインの個人レッスンでは画面に手元を映すよう工夫すること。				
授業計画	1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(A ②グループに分かれて45分で入れ替わる)				
	2 Aピアノ等による個人レッスン／B歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。				
	3 Aピアノ等による個人レッスン／B保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布する。)				
	4 Aピアノ等による個人レッスン／B現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法)				
	5 Aピアノ等による個人レッスン／B子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。				
	6 産学連携				
	7 Aピアノ等による個人レッスン／Bわらべ歌・手遊び歌の演習				
	8 Aピアノ等による個人レッスン／B童謡・唱歌等の子どもの歌の演習				
	9 Aピアノ等による個人レッスン／B簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ)				
	10 Aピアノ等による個人レッスン／Bリトミックを含む歌遊びの演習				
	11 Aピアノ等による個人レッスン／B互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。				
	12 産学連携				
	13 Aピアノ等による個人レッスン／B個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。				
	14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導 (A B共)				
	15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(A②共)				
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの歌』教育芸術社				
参考文献	『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編				
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %	
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %	